

江 差 町

7326 田島 知佳

1．江差町の概要

1.1 地名の由来

江差町は、アイヌ語で昆布という意味の「エサシ」から来ている。

1.2 歴史

安政元年函館奉行の支配下に置かれる。明治 2 年 7 月函館県に属し、同年 9 月弘前県に合併され、同年 11 月青森県に属した。明治 5 年開拓使函館支庁の所属となる。安政 30 年檜山支庁の設置に伴い、その管轄下におかれる。明治 33 年 7 月 1 級町村制施行し「江差」と町名を改めた。昭和 30 年 2 月、江差町と泊村が合併し、現在の江差町となっている。

江差町は江戸時代から明治時代の初期まで、ヒノキアスナロの産地、ニシン漁業の基地など、北海道を代表する商業港として栄えていた。木材貿易が盛んになった頃の延宝 6 年（1678 年）に松前藩がヒノキ山「御山七山」の番所を江差に設置した。しかし、その 17 年後の元禄 9 年（1695 年）にヒノキ山の半分を焼失する大規模な山火事が発生した。そのことが原因でヒノキ交易が振るわなくなり、不足分を補うようにニシン交易が盛んになった。そして、徐々にニシン交易が江差港の中心となっていった。

ニシンは古くから江差の前浜で捕られていたが、資源として認識されるようになったのは約 500 年前。馬之助という人が来てニシン漁を始めたという記録が残っている。刺網を使って本格的にニシン漁を始めたのは約 350 年前である。ニシンはすぐに商いになるため武士も医師も船を用意して漁をし、病気などの者以外漁期に家にいる者はおらず、家族総出で海に出ていた。わずか 3 か月で 3～40 両もの大金を貯めることも可能であった。

ニシン交易のための北前船が盛んに行き来していた約 200 年前に江差追分が誕生する。江戸時代に信州中山道で歌われていた馬子唄が一種のはやり歌として全国に広まった後、越後に伝わったものが舟歌として船頭たちに歌われるようになったものが北前船の往来で伝わり、座頭佐之市が謙良節と追分を融合させることにより生み出したものである。

1.3 地勢

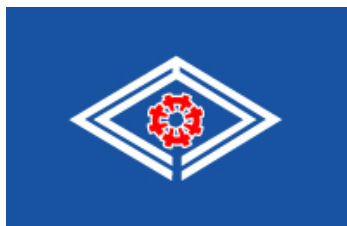
江差町の総面積は 109,57km²、東西に 10km、南北に 17km あり、中央部に厚沢部町が入りこんで B 型の地形をなす。また、中央部に厚沢部川が流れて町内を 2 分し、東部には元山・笹山の山岳地帯になっている。笹山が町の分水界となり、山麓は丘陵で海岸に迫っている。この沖合 500 メートルのところにある“かもめ島”に沿って市街地が発達している。北部は厚沢部川流域を中心に水田が発達している。

図 1 江差町の位置



出典：北海道檜山支庁 HP

図 3 町章



出典：江差町公式 HP

図 2 かもめ島



出典：江差町公式 HP

図 4 町花



出典：江差町公式 HP

2. 気候

江差町の気候は、日本海に面しているため夏期は降雨が少なく気温も高めであるが、冬期は大陸からの季節風により降雪が多めである。また、日本海を北上する対馬暖流の影響を受けているため、北海道の中では最も温暖な地域である。

2.1 寒候期（10月～3月）

北西を主とする季節風が強く、この時期の平均風速は 6.3m/s、日最大風速は 10m/s 以上の日が 112 日、日最大風速 15m/s 以上の日が 30 日ある。12 月から 1 月にかけては、毎日のように 10m/s 以上の風が吹いているような状態である。

2.2 暖候期（4月～9月）

春の訪れは北海道内で最も早く、4 月にはタンポポが咲き、ひばりやイワツバメが飛来する。春から夏にかけては気候が急速に変わり、夏日は年平均で 31.2 日、真夏日は年平均で 2.0 日ある。風は穏やかであり、沿岸水温も 8 月は平均 23 度と海水浴に最適な水温になる。

表 1 江差の気象極値

項 目	極 値	年 月 日
最高気温	34.4 度	1999 年 8 月 4 日
最低気温	- 12.7 度	1966 年 1 月 20 日
最大瞬間風速	43.3m/s (南南西)	2004 年 9 月 8 日
日降水量	173.5mm	1995 年 8 月 20 日
日降雪量	55cm	1953 年 1 月 3 日
最深積雪	194cm	1945 年 2 月 26 日

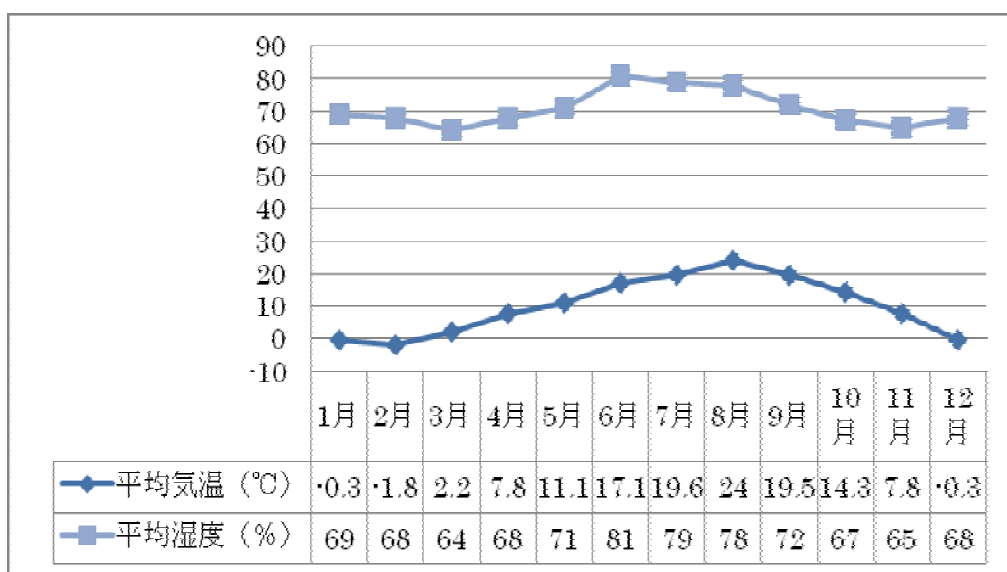
出典：江差測候所 HP

表 2 江差の季節現象の平均値

季節観測		生物季節観測	
項 目	月 日	項 目	月 日
初霜	11 月 9 日	桜開花	5 月 3 日
初氷	11 月 13 日	桜満開	5 月 7 日
初雪	11 月 1 日	梅開花	4 月 30 日
初冠雪	10 月 20 日	ひばり初鳴	4 月 10 日
積雪	11 月 17 日	うぐいす初鳴	4 月 19 日

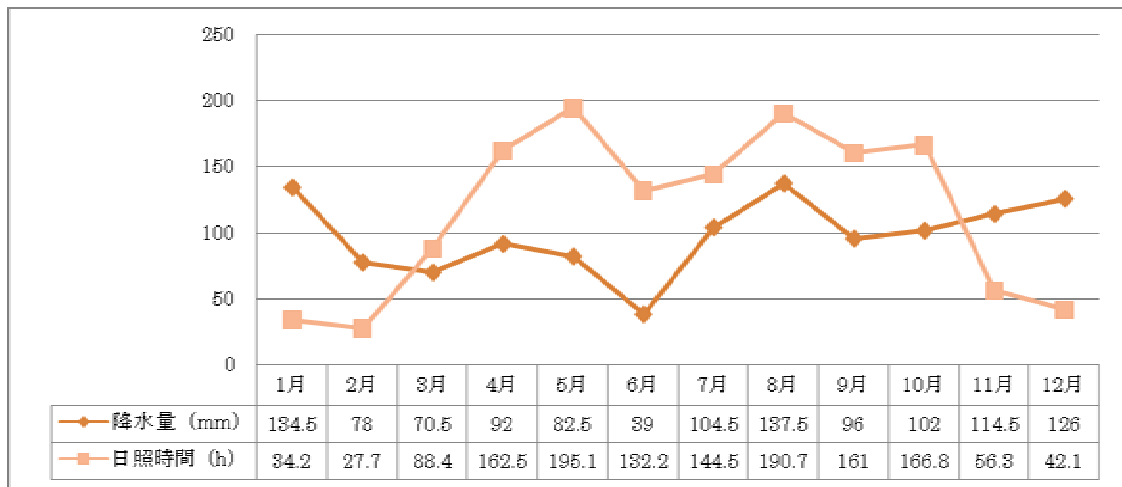
出典：江差測候所 HP

図 5 江差町の平均気温と平均湿度



出典：江差町公式 HP

図 6 江差町の降水量と日照時間



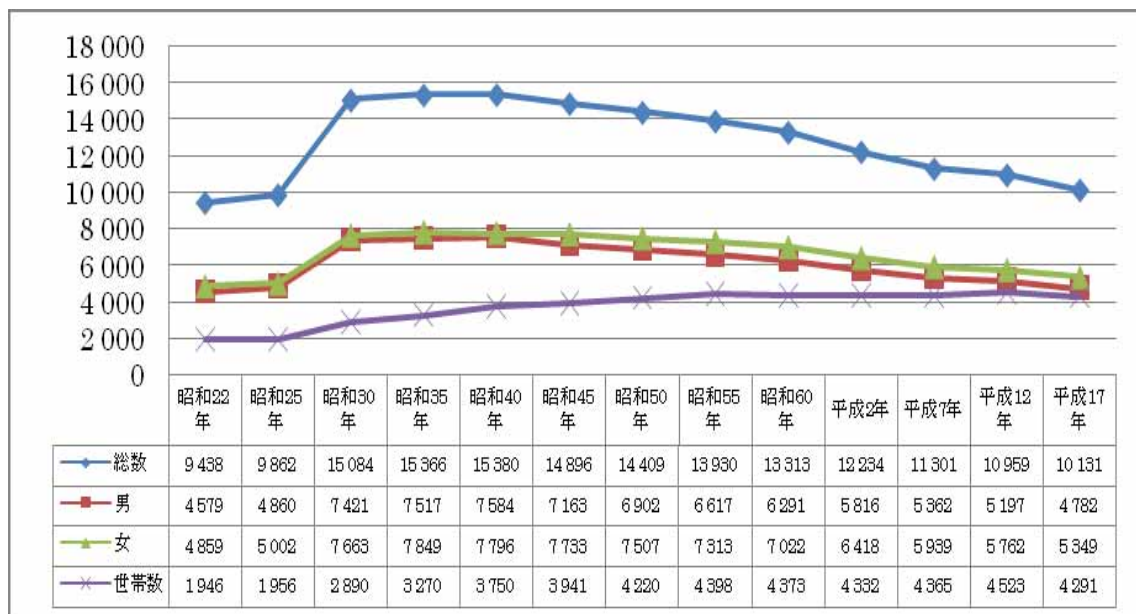
出典：江差町公式 HP

3. 人口

3.1 国勢調査データ

昭和 22 年から昭和 30 年にかけて人口総数が急激に増加したものの、近年は減少傾向にある。男女別人口数もそう大差はなく、ほぼ同じ割合で減少している。しかし、人口総数・男女別人口数ともに減少傾向にあるのに世帯数が徐々に増えつつあるという矛盾がおこるのは、おそらく江差町内でも核家族化が進行しているからであろう。また、江差町は 1997 年に道内の支庁所在地として初めて過疎地域の適用を受けている。(図 7 参照)

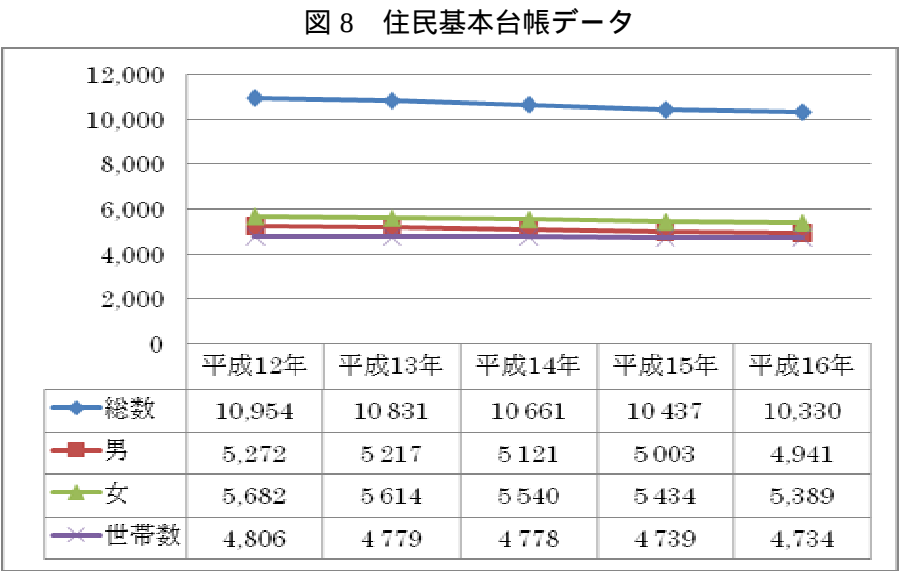
図 7 国勢調査データ



出典：北海道庁 HP

3.2 住民基本台帳データ

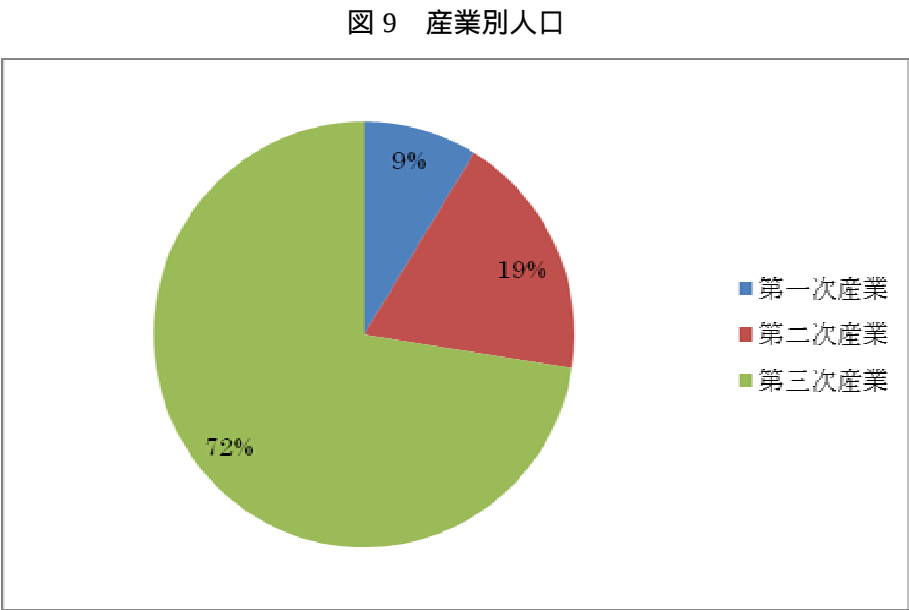
総数こそ減少傾向にあるが、男女別人口数・世帯数ともにほぼ横ばいである。総数が減少傾向にあるのは、若者の町外流出などがあるからだろう。(図8参照)



出典：北海道庁 HP

4 . 産業

4.1 産業別人口



出典：北海道庁 HP

産業別人口をみると、第三次産業が 7 割を占めており圧倒的に多い。江差町は日本海に面していることから漁業の町としても有名だが、当の第一次産業の人口が一番少ない。これは、若年層の町離れや、漁業の不振が原因だと考えられる。

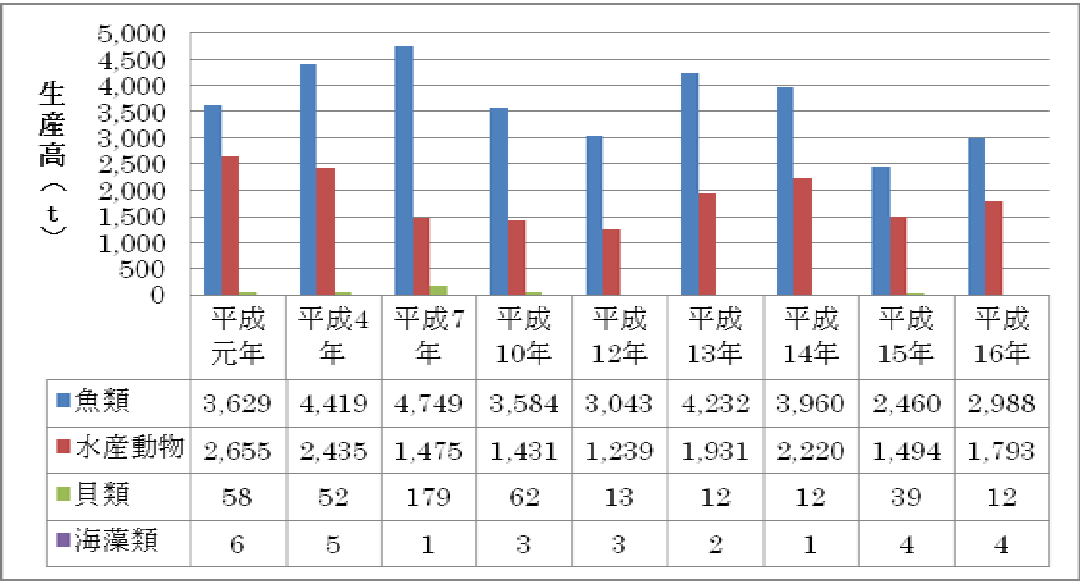
また、第三次産業の割合が高いのは、江差町が観光の町としても成り立っているからだろう。しかし、近年は観光客の数も減っている。

4.2 漁業

江戸時代にニシン漁で栄えた江差町。現在では、年々漁業生産高が減っている。やはり、後を継ぐ若者の町外流出が多いことなどが関係しているのではないかと思う。

江差町では、さけ・ます・すけとうだら・ほっけ・ひらめ・かれいなどの魚類、いか・たこ・うに・えびなどの水産動物、あわびなどの貝類、こんぶ・わかめなどの海藻類が水揚げされている。そのほかにも紅ズワイガニやエゾバカガイが有名である。

図 10 漁業生産高（数量）の推移

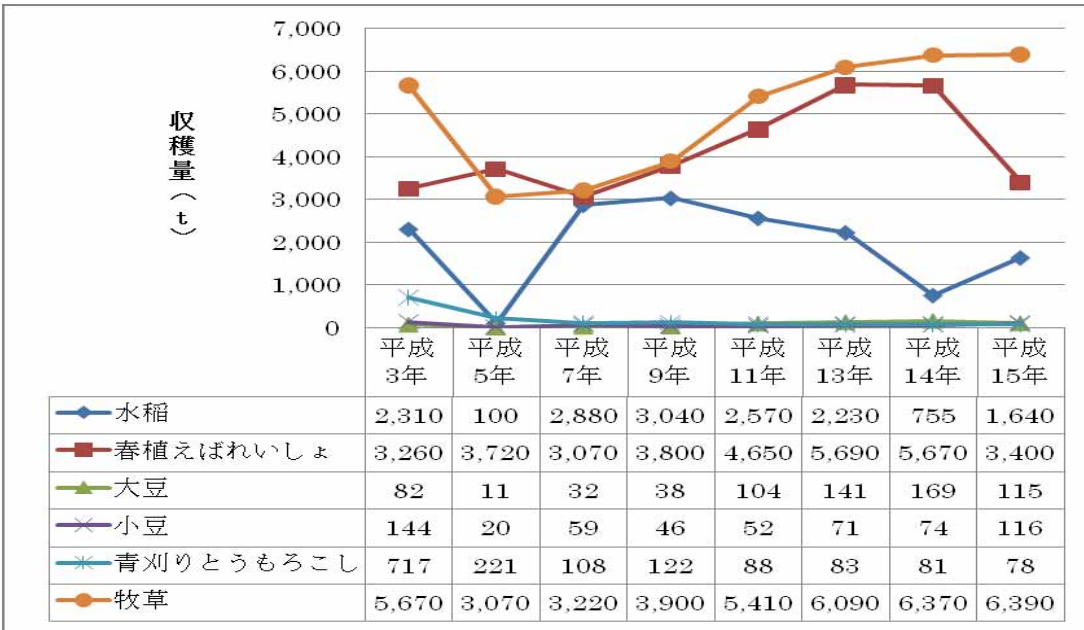


出典：江差町公式 HP

4.3 農業

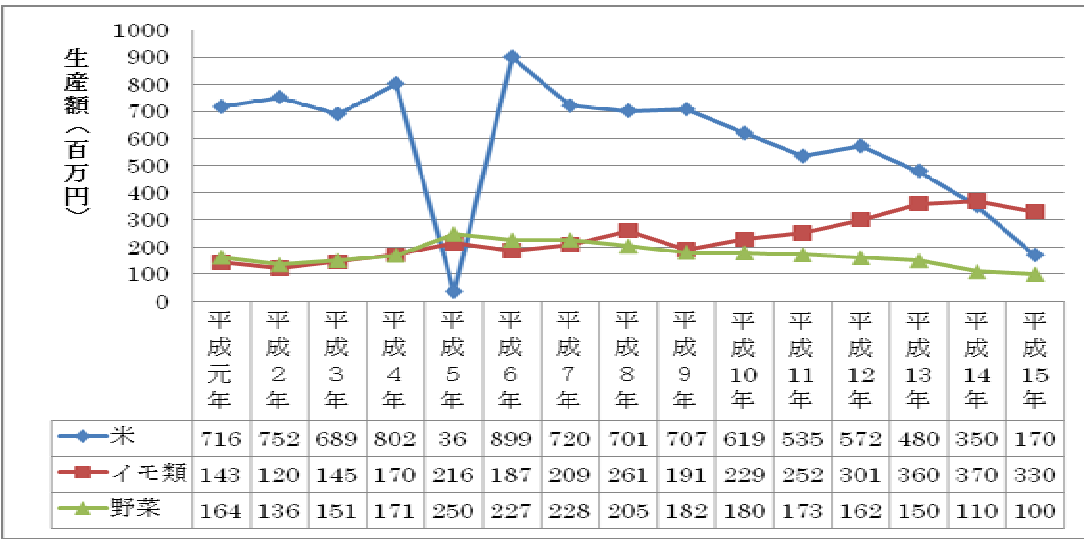
江差町では、お米・小麦・ばれいしょ・大根・にんじん・トマト・なす・きゅうり・ねぎ・レタス・大豆・小豆・とうもろこし・牧草などを育てている。中でも牧草が一番多く、次いでばれいしょがくる。やはり北海道ということもあってじゃがいもの生産が多いようだ。1993 年米騒動と呼ばれる記録的冷夏の影響で、江差町の米の収穫量・生産額ともに急激な減少を見せている。(図 11 , 12 参照)

図 11 収穫量



出典：江差町公式 HP

図 12 生産額



出典：江差町公式 HP

5. 観光

5.1 観光名所

図 13 江差追分会館



出典：江差町公式 HP

○江差追分会館

江差追分をはじめとする、江差に伝わる数多くの郷土芸能を堪能できる場所である。また、地元の全大会優勝者や師匠などが唄う本場の江差追分を追分会館の百畳敷ホールで聞くことができる。

図 14 旧中村家住宅



出典：江差町公式 HP

○旧中村家住宅（国指定重要文化財）

中歌町に残されている旧中村家住宅は、江戸時代から日本海沿岸の漁家を相手に、海産物の仲買商を営んでいた近江商人の大橋宇兵衛が建てたものである。大正初期に大橋家から中村米吉が譲り受け、昭和 46 年に重要文化財に指定、さらに昭和 49 年に中村家より町に寄贈された。昭和 57 年に修復が完成し、一般に公開されている。ニシン漁全盛期を今に伝える廻船問屋である。

図 15 横山家



出典：江差町公式 HP

○横山家（北海道指定有形文化財）

横山家は現在まで 200 年以上続いている旧家であり、現在も 8 代目が住んでいる。母屋と四番倉にはニシン漁全盛期のころに使用されていた生活用具などが陳列されていて、当時の暮らし振りを今に伝える貴重な建物のひとつである。

図 16 旧檜山爾志郡役所



出典：江差町公式 HP

○旧檜山爾志郡役所
(北海道指定有形文化財)

明治の香りを今に伝える洋風建築の粋を堪能できる建物である。館内はビデオ映写や展示によって建物の歴史と特徴を理解することができる。特筆は各室内を飾ったというペイズリーや花柄など13種類もの美しい布クロスで、当時にしては大変珍しいものと高く評価されている。

図 17 旧関川家別荘



出典：江差町公式 HP

○旧関川家別荘(町指定有形文化財)

江差の発展に代々尽くした松前藩一の豪商の別荘である。この別荘には、江差最盛期の頃の様子を伝える貴重な古文書や調度品が大量に保管されている。この古文書や調度品は現在一般に公開されている。

図 18 逆川森林公園



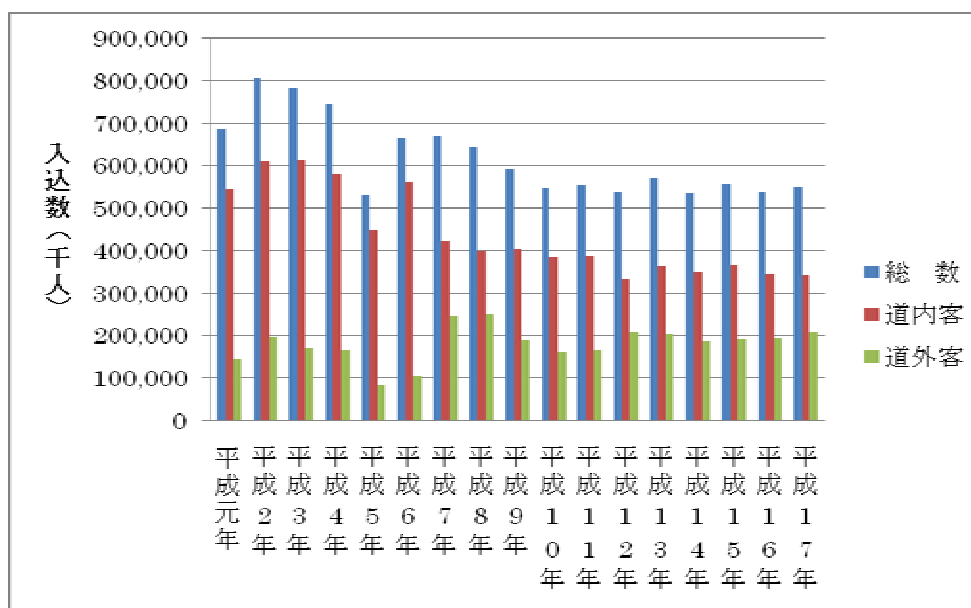
出典：江差町公式 HP

○逆川森林公園

逆川周辺で整備された公園には、町民が記念のために植えた桜の木が約 600 本あり、花見の時期を中心に町民の憩いの場となっている。

5.2 観光客入込数

図 19 観光客入込数



出典：江差町公式 HP

観光客の総数は平成 2 年をピークに減少している。また、同様に道内の観光客数も平成 2 年をピークに減少している。道内の観光客数が減っているのは、道都である札幌市からの直行交通機関がないことが挙げられる。しかし、道外の観光客数は近年徐々に増加している。それは、道外の江差に関する関心が高まっているからではないかと考えられる。図 19 からわかるように平成 5 年は冷夏の影響もあって、やはりその年の観光客は減っている。

参照 HP

- ・ 江差町公式ホームページ <http://www.hokkaido-esashi.jp/index.htm>
- ・ 江差追分会館 <http://www.dbj.go.jp/hokkaido/localdata/local/0402-esashi.html>
- ・ 江差測候所 <http://www.sapporo-jma.go.jp/esashi.html>
- ・ 北海道檜山支庁公式ホームページ <http://www.hiyama.pref.hokkaido.lg.jp/>
- ・ 北海道庁ホームページ <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/>
- ・ フリー百科事典 Wikipedia - 江差町 -

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B1%9F%E5%B7%AE%E7%94%BA>